

校長通信「学ばん共に」



その5 あいさつについて考える (2022/5/20)

(5月オンライン全校集会より)

みなさん、あいさつとはどんなものだと思いますか。ある人はこう答えるでしょう。「あたりまえのもの」「大事なもの」…学校でそう教えています。確かにその通りです。でも、ある人は「特に意味なんてないかも」「考えたことないなあ」…そうですね。あいさつの意味やその価値について説明するのは意外に難しいかもしれません。

でも、世の中からあいさつがなくなったらどうでしょう。人と人が出会ってもあいさつを交わさない。学校でもだれもあいさつしない。そんな中で生活したら、みなさんはどんな気持ちになるのでしょうか。

「楽でいいや」という人も中にはいるかもしれませんが、あいさつなしの環境でずっと過ごすことができるでしょうか。私にはできそうもありません。息苦しくなってしまいます。あいさつをしない環境では、人と一緒に生活することを不安に思う気持ちが生まれます。もしかすると、人を疑う気持ちも生まれてしまうかもしれません。それほど、あいさつには特別な力があると私は思うのです。

だから私はこう考えました。あいさつは「心と心を結びつけるもの」「人と人をつなぐもの」「互いの存在を認め合うもの」そして「自分自身の心を整えるもの」だと考えました。地球上の様々なところに人間は住み、それぞれが自分たちの文化を持っていて、ほぼ全ての民族があいさつという習慣を持っています。もちろんその言葉や意味は様々ですが確かにどの民族にもそうした習慣があるそうです。だから、あいさつは「先人が生み出した便利で価値のある文化の一つ」だと私は考えます。そして「すばらしいあいさつのあふれる環境はすばらしい社会をつくる」ということも言えるのだと思います。

ここで確かめておくべき大切なことがあります。それは、「あいさつは人から強制されるものではない」ということです。形だけのあいさつを続けても、心が伴わなければ人に気持ちは伝わらないと思います。また、あいさつは相手との人間関係や場所、時間、自分の心の状態などによっても変わるものです。しかし、だからといってあいさつが自然にでき

るようになるわけでもないのです。

私の学生時代の友人に、ある会社で人事部長をしている人がいます。彼がこんなことを言いました。「採用試験の面接官をしていると、部屋に入ってくる様子やあいさつの様子を見るだけでその人の生活態度やものの考え方がなんとなく伝わってくる。さらに少し話を聞くと、これまでの生き方や人にとどのように接してきたかがわかるよ。」今までに何千人という人を相手に面接してきた彼の言葉には「本当にそうなんだろうな」という重みがありました。さらに彼はこう続けます。「あいさつは、その場しのぎの人と、相手を思い、心のこもったあいさつを日頃からしている人とではまるで違うよ。」この言葉は私の経験からもうなずけるものでした。つまり、若い頃から、どれだけよいあいさつを周りの人にできるかで、人としての成長が違うということです。だからこそ、毎日のあいさつは「自分を成長させるための練習」だと思えることが大事なのだと考えます。

ここで、あいさつの質について考えてみます。

「すばらしいあいさつ」は、相手を見て笑顔で声を出しおじぎするあいさつです。もちろん「すばらしいあいさつ」が全員できたらいいのですが、なかなかそうはいきませんね。(中略)さらに「あいさつのレベル」について考えてみます。実際にはあいさつにレベルはありません。みなさんが自分のあいさつを振り返るヒントになればという思いで考えました。「あいさつの質」と合わせ、自分のことを振り返りましょう。レベルA…自分から先に「すばらしいあいさつ」ができる。地域の方に「すばらしいあいさつ」ができる。相手のあいさつを受けて「すばらしいあいさつ」ができる。(中略) みなさんどうですか。自分のあいさつはどのレベルかわかりましたか。イメージがわからない人のためにここでレベルAのあいさつをお見せします。(…動画…) すばらしい! 生徒会執行部のみなさんに、協力してもらいました。あいさつのレベルは日によっても相手によっても変化するものです。そして、急には向上しないものです。でも、毎日少しずつ意識して自分なりの努力を続ければ、一つ上のレベルにはなれると思います。是非、チャレンジしてみてください。あいさつ運動をきっかけに可美中生のあいさつがこれまで以上によくなるといいなあと思います。(北村健治)